

場所・面積 北海道寿都郡黒松内町、5.5 ha

管理目的 道南では殆どの湿原が開発などで失われた中でわずかに残存している高層湿原であるため、公有地として乾燥化を防ぎ保全することを目的とする。

サイト概要 道南では殆どの湿原が農地開発などで失われた中でわずかに残存している高層湿原である。国内最古の湿原の一つであり、最終氷期から現在までの約2万4千年間の湿原堆積物で泥炭が構成されている。氷期から現在までの気候変動を反映した植生変化の記録を保存しているタイムカプセルである。

地上部にはヌマガヤ・イボミズゴケ群落といった湿原植生が分布している。過去に掘削された明渠による乾燥化進みササの侵入などが見られるが、公有地化を機会に堰の設置などで地下水位の上昇と維持を試み、高層湿原生態系の保全に取り組んでいる。

明渠の解放水面下では希少な淡水魚類の生息が確認されている。



土地利用の変遷 歌才川に沿う湿地で昭和初期に農地開拓目的で明渠が掘削された。下流域から乾燥化し、農地として利用が進んだが、その後の農業衰退により耕作放棄地が増加した。最上流部の現歌才湿原のみが湿原環境を保持して現在に至る。

サイト周辺の環境 北側区画の周囲は旧道と国道に囲まれている。南側区画は国道と上流側丘陵、下流域の雑木林（旧農地）に囲まれている。



アピールポイント 道南に僅かとなった高層湿原を保全する価値は高く、公有地化してそのままの状態を維持することに大きな意義がある。乾燥化を防ぐ取り組みも徐々に効果をあげているため、今後も継続が求められる。

生物多様性の価値

価値（1）公的機関等によって、生物多様性保全上の重要性が既に認められている場

【選定されている制度名】

重要湿地500 歌才湿原 No.070

https://www.env.go.jp/nature/important_wetland/wetland/w070.html

【選定理由や内容】

生物分類群：湿原植生

共通の選定基準：基準1 湿原・塩性湿地、河川・湖沼、干潟・砂浜・マングローブ湿地、藻場、サンゴ礁等のうち、生物の生育・生息地として典型的または相当の規模の面積を有している場合

選 定 理 由：小規模な湿原であるが、南西部高層湿原植生の原型を残している。
植 生：ヌマガヤーイボミズゴケ群落など

【選定されている制度名】

重要里地里山 ブナ北限の里「黒松内」 No.1-3

https://www.env.go.jp/nature/satoyama/01_hokkaido/no1-3.html

【選定理由や内容】

共通の選定基準：基準1、2、3

選 定 理 由：朱太川を中心に、森と川と海のつながりが維持されている町全域が対象である。天然記念物の歌才ブナ林をはじめ、横断構造物の無い朱太川、湿原、農地や森林などがつながり合う多様な生態系が成立し、カワシンジュガイも身近な生きものである。河川の連続性の指標となるアユ、サケ、サクラマス、カジカなどの通し回遊魚も生息する。

（北海道における選定の観点：自然の営みに人の営みが加わって維持されてきた地域、里地里山的環境を活かした生態系ネットワークへの配慮）



写真の撮影年月：2011年9月
写真の説明：湿原北側より撮影



写真の撮影年月：2011年6月
写真の説明：故辻井達一理事長（北海道環境財団）との現地視察（湿原南側）

生物多様性の価値

価値（2）原始的な自然生態系が存する場

【場の概況】

国内最古の湿原の一つであり、最終氷期から現在までの約2万4千年間の湿原堆積物で泥炭が構成されている。氷期から現在までの気候変動を反映した植生変化の記録を保存しているタイムカプセルである。

【植生自然度】

10

【主な植生】

残存湿原部には、ヌマガヤ・イボミスゴケ群落といった湿原植生が分布し、希少種を含む湿原植物が多く分布する。

【確認された主な動植物】

植物：ヌマガヤ・イボミスゴケ群落、ヨシ
昆虫：アオイトトンボ、ツユムシ

※希少種は別途価値6に記載する。



写真の撮影年月：2011年6月

写真の説明：エゾカンゾウ

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

国内最古の湿原の一つであり、最終氷期から現在までの約2万4千年間の湿原堆積物で泥炭が構成されている。氷期から現在までの気候変動を反映した植生変化の記録を保存しているタイムカプセルである。

湿原の乾燥化対策として設置された明渠の解放水面下では、希少な淡水魚類の生息が確認されている。

【確認された希少種】

希少種（植物）：ヒロハオゼヌマスゲなど5種

希少種（鳥類）：オオジシギ、ホオアカ



写真の撮影年月：2011年5月

写真の説明：オオジシギ

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>【管理計画の内容】</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 湿原の乾燥化対策のための排水路水位嵩上げ（堰設置）を行った。➤ 特に南側の排水路付近の乾燥化によるシラカンバやハンノキ等の侵入防止策として、国道敷地内の灌木伐採を5年に1回行う。	<p>【モニタリング対象】 湿原植生、地下水位および微地形変化</p> <p>【モニタリング場所】 植生：歌才湿原全域 地下水位：排水路および湿原全域 地形：歌才湿原全域</p> <p>【モニタリング手法】 植生調査、地下水位計による連続測定、地形測量 およびドローン撮影データの解析</p> <p>【実施時期及び頻度】 植生調査：3年に1回程度（地下水位上昇の影響把握） 地下水位：毎年 地形測量：毎年</p> <p>【実施体制】 北海道大学農学研究院の井上教授を中心とした調査グループ 北海道大学地球環境科学研究院の露崎教授を中心とした調査グループ</p>